



東方だより

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

平成 27 年度 後期号 (通号 第 27 号)

〒 101-0021
 東京都千代田区外神田 2-17-2
 延寿お茶の水ビル 4 階
 TEL: 03-3251-4081
 FAX: 03-3251-4082
 URL <http://www.toho.or.jp>

中村元先生霊廟と前田専學理事長 (平成 27 年 10 月 11 日 於・東京都立多磨霊園)

目次

理事長ご挨拶

- ・前田専學理事長2

理事ご紹介

- ・川崎信定理事3

特集

- ・国際ダルマ・ダンマ学会に参加して 日野紹運講師4

随筆

- ・私の思想遍歴 赤井士郎理事5

東方学院

- ・講師のご紹介 ひろさちや講師 津田真一講師6
- ・研究会員の声 岡村光展さん 山下宗秀さん7

研究活動

- ・科学研究費 基盤研究 (C)
 葬送における遺品・貨幣・交換の宗教学的的研究
 金子奈央専任研究員8
- ・研究所コラム 佐久間留理子専任研究員9
- ・研究員の声 茨田通俊専任研究員 奈良修一専任研究員10

行事イベント報告

- ・第 25 回中村元東方学術賞授賞式 他12

新刊紹介 平成 27 年度芳名録 事務局通信

理事長ご挨拶

前田専學理事長



今年ほど寛いだ気持ちでお正月を迎えることが出来たのは近年にないことでした。これは役員の方々や専任研究員の方々、特に事務局員の皆様方の一方ならぬご尽力によることは申すまでもないことです。が、その他多数の皆様方のご支援ご協力の賜物であり、ここに深く御礼申し上げます。次第であります。

顧みれば今から四十八年前の昭和四十三年に中村先生が『佛教語大辞典』編纂のため「東方研究会」を組織され、それをもとに昭和四十五年に先生を理事長とする財団法人東方研究会を、それを母体にして昭和四十八年には先生を学院

長とする東方学院を設立され、研究員を事務局員にして有意義な成果を上げられました。しかし平成十一年十月十日先生は享年八十六歳で亡くなられ、当法人は大黒柱を失い、途方に暮れました。中村洛子夫人の決断で亡き先生のご遺志を継承することになり、洛子夫人を理事長に、三枝充憲監事を学院長に、小生は常務理事に就任して、徐々にもとに復するよう努力致しました。しかし平成二十二年六月四日洛子理事長も逝去され、その後は小生が理事長と学院長を兼務して、財団法人を大事に守り育てて参りました。

思いがけなくも平成二十年十二月一日、公益法人制度改革三法が施行され、従来財団法人は、一般財団法人か、よりハードルの高い公益財団法人かを選ばざるを得なくなりました。私どもは二者択一の岐路に立たされ、公益財団法人を選びました。その実現に向けて四苦八苦中のところに、平成二十四年四月には中村元博士生誕一〇〇年の記念行事を三年間に亘って行うこととなりました。三代目の理事長である私の頭の片隅から、何故か、常に「貸家と唐様で書く三代目」という戯れ歌が離れませんでした。

幸いにも平成二十四年七月に監督官庁

である内閣府——財団法人の際には文部科学省——から公益財団法人の認可があり、財団法人東方研究会から公益財団法人中村元東方研究所に名称の変更をしたものの、事務局の体制は財団法人の時代のままでした。公益財団法人認可後三年以内に義務づけられている立ち入り検査に備えて、至急ガヴァナンスの行き届いた公益財団法人に相応しい体制作りをする必要に迫られました。記念事業の進行中にありながらも、事務局の改革と大幅な人事異動が平静に行われ、立ち回り検査も昨年の十一月五日に大過なく済み、無事名実ともに公益財団法人の仲間入りを果たすことが出来ました。

今一つの気がかりであったのは、最晩年の中村先生を悩ませ、その処置を小生に任された先生の蔵書三万四千冊のことで、主としてそのために中村元記念館を作って頂いたのですが、まだ十分に基礎が出来ていない特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所（理事長・清水谷善圭）によって管理されています。この不安も昨年四月十日に解消されました。この日中村元記念館で行われた「寄贈に関する覚書」の調印式で、「貴重な蔵書の分散を防止するため」同研究



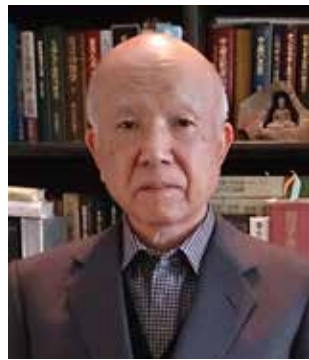
調印式の様子 (左:清水谷善圭記念館理事長、右:松浦正敬松江市長) 提供/中村元記念館

所から正式に松江市に寄贈され、松浦正敬松江市長は「市の事業として責任を持って管理し、調査もする」と、約束されました。これはご遺族が望まれていたことでもあり、先生もこれで安堵されたのではないかと思います。周知のように、松江市には小泉八雲の記念館があります。が、じつはこの記念館には、残念ながら八雲の蔵書はなく、まったく八雲と無縁であった富山大学図書館のヘルン文庫に収められています。それだけに中村先生の全蔵書が松江にあるということは心ある松江市民の誇りになっています。

来る平成二十八年度には、公益財団法人中村元東方研究所と東方学院が、共に中村先生の高邁なご遺志の実現に心置きなく専心できる条件が整いました。皆様方の変わらぬ力強いご協力をお願い申し上げます。

理事ご紹介

川崎信定理事



中村元先生に始めて御指導を受けたのは、(今から六十年も前の)昭和三十年の夏休み前で、川崎は教養学部

二年生。「寺の後継ぎですが、印度哲学の狭い学問にいきなり入るのは不安!」と迷いを訴えた私に、中村先生は「かならず後に仏教研究に入るようになるから」と断言され、当時、駒場に新設された教養学科(アメリカ分科)に進学して「なんでも良いから、思想を扱ってみることをお勧めになり、さらに「英語で考えるまでマスターすることが、これからは必要になります」と附言されました。この初指導に従って、アメリカ科に進学。二年後に印哲大学院で専門研究を始めた時に、ユネスコ国内委員会が中村元著『東洋人の思维方法』英訳を企画。中村先生を囲んでアメリカ人II世留学生たちとチームを組み、連夜の特別授業さながらに、私も「インド人の思维方法・

【プロフィール】

川崎信定 かわさきしんじょう

昭和 10 年船橋市生まれ。筑波大学名誉教授・文博(東大)。(公財)東洋文庫研究員(チベット文化研究)・(公財)中村元東洋学研究所理事。第 84 回日本学士院賞受賞(平成 5 年)・文化功労者顕彰(平成 26 年)

著書:『一切智思想の研究』(春秋社、平成 3 年)・『原典チベットの死者の書』(ちくま学芸文庫、平成 5 年)・『インドの思想』(放送大学教材、平成 4 年)・『釈尊の教え』(中山書房仏書林、平成 9 年)

【特集】 国際ダルマ・ダンマ学会に参加して



開会式の模様

【プロフィール】

日野紹運 ひのしょううん

昭和 23 年岐阜県生まれ。名古屋大学文学研究科博士後期課程単位取得退学、プーナ大学サンスクリット学科大学院博士課程修了。岐阜薬科大学名誉教授、平成 23 年より現職。著書は「不二一元の伝統」(英文叢書全 13 卷) 他



昨秋(平成二十七年十月二十四(二十六日)、インドールにて開催の第三回国際ダルマ・ダンマ学会に参加した。

今回はテーマを「宗教の調和 人類の福利」とし、世界の異なる宗教の間に共通の価値観を追求することを通じて全宗教の調和をめざし、また宗教のはたらきによって世界の連帯、平和、繁栄、福利を生み出す道を切り拓こうという目的のもと開催された。プレナリーの他に十部会(世界平和、環境と自然、人間の尊厳、宗教的多元主義、道徳及び精神的価値、ジェンダー、社会正義、ヨーガの伝統、知識、社会奉仕)が設けられた。筆者は「宗教の調和」の他に、東日本大震災等における宗教者の役割についての議論が可能な「環境と自然」部会に強い興味を持った。だが結局は十九世紀に宗教の調和を説いたラーマクリシュナを念頭に置いて「宗教の調和を求めて」との演題を提出した。

平成二十四年、平成二十六年に続く今回は、本年平成二十八年のウツジャインでのクンプメーラを記念する一連の学会招致のひとつで、その

ためマディヤプラデーシュ州文化省の助成を受け、地元のサンチー仏教インド学科大学(SUBIS)との共同開催となったため、一段と規模の大きな学会となった。プレナリーおよび部会発表で二百名ほど、一般参加者も二百名ほど、全体で四百名を越す参加者だった。特にSUBISは大学院博士課程新設などエキスパンションの過程にあり、意気盛んで学会運営にも洗練さがうかがえた。三日間の会期中ホテルと会場の往復だったが接遇は万全で、またナヴァ・ラサを紹介するインド舞踊のカルチャー・プログラムも気が利いていた。

プレナリーへの招待者は宗教界・学会他から多彩だった。カンチー・カーマコーティのシャンカラーチャリヤが当日不参加となったのは誠に残念だったが、仏教界からはスリランカ大菩提会会長、ベトナム佛教大学副学長、中央チベット大学前副学長、ルンビニ佛教大学副学長など、ヒンドゥー教側からは研究者の他にクンプメーラを主導するはずの各組織から幾人かのグルジが敬意と尊敬をもって迎えられていた。パ

ブリック・セクションでの彼らの説教は聴衆を酔わせた。「ダルマ・クシエトレー、クル・クシエトレー……」と言えば後はあの『ギター』冒頭偈の合唱になるといった具合である。ジャイナ教からは米大教授が、イスラム教からはサイト「新時代・イスラム」を主宰するジャーナリストが招待されていた。インドに活動するシリア正教会からは主教が、そして、ユダヤ教からはイスラエルのラビ養成機関から代表が招待されていた。なお、日本からは鎌田康男・関西学院大学教授と筆者がプレナリー演者だった。シヨールペンハウアー研究で高名な鎌田教授の演題は「宗教の全体的視野が人類の調和を可能にする―現代における欲望の解放と制御―」だった。

インド精神文化のキーワード「ダルマ」をもって諸宗教の調和をはかろうという志向性がうかがえ、たし、『ギター』の「真珠のひもを通る糸のように、私はあらゆる宗教の中にある」に做えば「インドの宗教のなかには悉くヒンドゥー・ダルマが体現されている」ということになるのか、と愚考したことであった。

【随筆】

私の思想遍歴



画／赤井士郎

【プロフィール】

赤井士郎 あかいしろう

昭和 8 年富山県射水市本江村生まれ。満州国民学校、富山中部高校、武蔵大学経済学部卒業。三井不動産常務、三井ホーム社長、住宅関係団体法人会長を歴任。



この東方学院に入学して十数年、研究会の理事を拝命して七年になります。よく次の質問を受けます。「何故この学院に入ったか」という。それには私の思想遍歴を申し上げることで答へたいと思います。生家は浄土真宗に熱心な家で、富山県の小地主、幼時は軍国日本で若鷲にあこがれる小学生、小六で敗戦、戦後農地解放、父の転職、貧しい自作農に転落。そのためか、高校時代若い先生が、共産主義を謳歌する方で、すっかり感化を受けることになる。大学もマルクス経済学を選択、卒業の昭和三十一年、人生進路の職業を決める段になり、時代は就職難と、赤狩りの時代、初めて自分の価値観の修正が求められることになる。大学の指導教授が立派な師であつたことが幸いに、運よく三井系の会社に入社することが出来たのであります。入社してからは人が変わったように労組活動を遠ざけ、もっぱら企業戦士になりきって仕事に進みました。その仕事は用地買収であり、漁業補償の交渉でした。いまままで持ち続けた価値観を自ら変え、

資本の利益に奉仕し、その成果として経営者、更に社長にまでなつていたのです。以上のような次第が思想遍歴の背景になるものあらまじですが、大切な自分の心の葛藤のことは記しておりません。自分の心の内面をみつめることは、今になって出来ることで、それは仏教との出会いによつてだと感謝しています。大雑把にいえば、イデオロギーなるものは、生活のためなら、あつさりとは転向できます。(唯物史観からの離脱)、企業活動で起る競争相手との摩擦、駆引きは、法にのつとれば良いとし、人間関係も最低の倫理観でかたづくことが出来ました。ただどうしても迷うことが心の問題でした。幼い頃、母から親鸞・蓮如のことを言い聞かされてきた信仰に関すること、いま思うと宿業のようなことだと思えます。広島支店長時代、仕事で行話まり、解決したのですが、心の不安が同時に起り、自分でどうにもならなくなりました。丁度その時古本屋で金子大栄の著書に出合い、それからというものの、真宗系の本を手当たり次第に読みました。「在家仏

教」の雑誌も十年ほど読みつづけました。しかしいくら本を読んでも何か物足りないものを感じておりました。この中村元研究所はその時から知っておりました。人を変える力は書籍だけではだめだと思えます。現に生きた人に教わつて始めて生きるための優先順位が示されるように思います。釈迦の対機説法は正にそういうことだつたのだらうと思えます。寺子屋方式の当学院、そして当法人の会は、そうした場であると感謝し、前田先生外多くの先生にお礼を申し上げたい気持ちであります。特に前田先生からはインド思想史を約十年同じ講義を受け、同じ質問をしてきたことに気づいた次第です。やはり自分の不明は直接教えられ、理屈でなく感得するものだという事です。○(左上掲載画の説明)「インド学はエジプト学ではない」の言は、中村元先生最終講義の時と奈良康明先生から聞きました。インド・ブツダ聖地巡りの中で。時恰も路上で五体投地の信者の姿を拝したのであります。インドは現在も生きた信仰の地であると思えました。

東方学院

東方学院

講師のご紹介



東方学院では、開講講座の編成に随時見直しを加えながら、インド思想や仏教の分野を中心に、時宜に合ったテーマ、話題の講師による連続講座など、東方学院ならではの講座を例年開講しています。今回は、ひろさちや先生、津田眞一先生にお話をうかがいました。

ひろさちや先生



撮影／児玉成一

昭和 11 年大坂生まれ。東京大学印度哲学科卒。同大学院博士課程中退。気象大学校教授を経て、大正大学客員教授。著書は 600 冊を超える。

東大の教養学部から、最初にわたしは哲学科に進学した。昭和三十二年である。わたしはギリシア哲学をやる予定でいたが、どうもギリシア語が苦手で、翌年、印度哲学科に転科した。しかし、わたしは、印度哲学科が仏教を中心に勉強する学科だとは知らなかった。それにわたしは、日本の仏教が葬式仏教に墮している現状に不満であり、仏教を勉強する気がなかった。それで指導教官の中村元先生に、「現代印度の哲学、つまり植民地解放の哲学をやりたい」と申し出て、許可をいただいた。卒業論文は「M・K・ガンディーの非暴力の哲学」であった。だからヒンドゥー教とイスラム教を中心に勉強した。

中村先生にはその後、大学院への進学やアルバイトの世話、気象大学校への就職の世話やら、いろいろとお世話になった。それで恩返しのためで東方学院での講義を引き受けた。学生時代、仏教よりもヒンドゥー教やイスラム教に関心があったもので、世界の諸宗教を比較する形での講座を持つことになった。

わたしは最初、一年間の講座のつもりであったが、^{しよんよう}懲慥されて「もう一年」ということになった。そこで二年目は、「日本仏教」を考察することにした。日本仏教の欠点・弱点をこてんぱんにやつつけるつもりでいる。どうも中村先生に叱られそうである。

津田眞一先生

東方学院・私の如来蔵

私は東方学院を私の如来蔵だと称しています。私が講師となりましたのは昭和四十九年四月、A. N. U. のデ・ヨング先生の下で Ph. D. 論文を仕上げて同



昭和 13 年、東京生まれ。東京大学文学部印度哲学梵文学科卒業。Ph.D. (A.N.U.)、文学博士(東京大学)。前国際仏教学大学院大学教授。主な著書に『反密教学』(春秋社、平成 20 年)

四十五年の九月に帰国して以来、ポストなど有る筈もなく一人でインド密教の勉強を続けていた私に、中村元先生がお声を掛けて下さったのです。その際の先生のお言葉はただ一つ、「すべてキミの好きな様にやってくれ給え」でした。

当時の東方学院の本拠は明神下の懐かしい明宏ビルの四階、その狭い急な階段と鉄の手すりにつかまって登り切った左側が事務室、その奥を二つに区切った右が先生の院長室、その左の四畳半くらいの部屋が教室で、そこでごく少数の、しかし熱心な聴講者と共に毎週木曜日、ニコマの最初の時間は梵語仏典の講読、次の時間は講義、ということ、設備的には兎も角、精神的には非常に恵まれた状態で講師生活に入ることになり

東 方 学 院

ました。

先生の御方針は「師友」で、私は一応講師ですが、聴講者の方々はまさに有難い善友で、その講義はその時点で私が考へております理論を率直に開陳し、その友達の批判を仰ぐというスタイルで、それを今日まで四十年間、一貫してまいりました。

その間、昭和六十年にはタントラ仏教で一サイクルを完結するインド仏教思想史の原理をまとめ、博士論文といたしました。その五年後、平成二年にはそれを「開放系の仏教学」という新しい視位に齎すことが出来ました。その間いろいろな大学で非常勤講師を務め、平成八年からは新設の大学院大学で講義や論文指導を始めましたが、この間の私の仏教理解にいやしくも何らかの進展があったとするならそのすべては、中村先生とその東方学院という如来の蔵(母胎)の中に生まれ、そこで育てられたのであったものです。この二、三年は仏教の根底に一貫して存在している論理を「終末論的実

存の弁証法」という言葉で捉へ、それを最良の反面教師であるカール・バルトの神学と対比する作業を進めてまいりましたが、今年度からはそれをまさにその如来蔵思想、さらに『法華経』へと廻つてその哲学的形姿を画定する作業に入りたいと思っております。

東方学院
研究会員の声



研究会員(東京本校)
岡村光展さん

私は平成二十五年三月に新潟大学を定年退職し、念願の研究会員になり二年目です。今年度は、前田先生、下川邊先生、木村先生、ひろさちや先生、それに関西校の佐々木先生の六コマを受講し、学ぶ喜びに浸りながら新潟市から通学しています。昨年十月の『中村元先生を偲ぶ記念講演会』で放送ディレクターの金光先生は、「中村先生が放送を通して与えられた大きい影響」を語られました。同講演会で永平寺西堂の奈良先生は、「釈尊が悟られた真理は一つ、

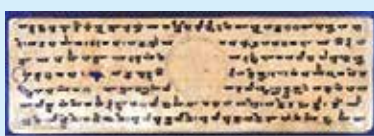
瞬間で短い、その後、対機説法で語られる中で様々に発展した」と語られました。中村先生の膨大な業績を学び、釈尊に近付きたいと思えます。仏教は深遠ですから、学ぶ事により信仰も深まると言う側面があります。一歩でも先に進む立場の人が、「温かく手を携えて『仏に成ることを目指し』に共に歩む」、慈悲と平等は仏教の根本精神です。「中村先生が最晩年に、『私には残す物は無いのですが東方学院を残します』と言われました」と奈良先生が紹介されました時、私は感涙しました。さあ皆様、道筋(聖道門・浄土門など)は違っても、唯一つの真理・仏に成ることを目指して『至要の道』を歩みましょう。

研究会員(関西校)
山下宗秀さん

私と東方学院との出会いは、私が、興隆学林専門学校というお坊さんを育てるための学校を卒業しようとしていた頃、苅谷定彦先生からご自坊で夜七時からされていた、東方学院の『法華経』講義を受けてみないかと、お誘いを受けたことがきっかけでした。今から二十五年程も前のことです。当時は、夜七時からということもあり、長続きはしませんでした。が、様々な所で、苅谷先生の『法

華経』講義を拝聴する中に、先生の『法華経』信仰と研究に裏打ちされた、インドのオリジナルの『法華経』を見つけ出そうとされる情熱に、知的好奇心が刺激され、あつという間に二十五年という歳月が過ぎ去ってしまいました。

そして先生の講義を拝聴する中に『法華経』を原典で読んでみたいという思いが湧き起り、サンスクリット語を勉強しようと思えました。しかしどこでサンスクリット語を勉強したらよいのか分からなかつたので、東方学院の案内パンフレットに載っていた山口恵照先生の御自坊に直接電話をかけ、ご相談したところ、「自分が勉強しやすいところで、勉強しなさい」という主旨の御返事を頂きました。そのような理由で十年程前から、茨田通俊先生の下でサンスクリット語を勉強しています。



こうした東方学院の先生方のご指導を頂きながら、劣等生ですが、「継続は力なり」という言葉を信じて、日々『法華経』とサンスクリット語の二つと格闘しながら、充実した時間を過ごしています。

研究活動の紹介

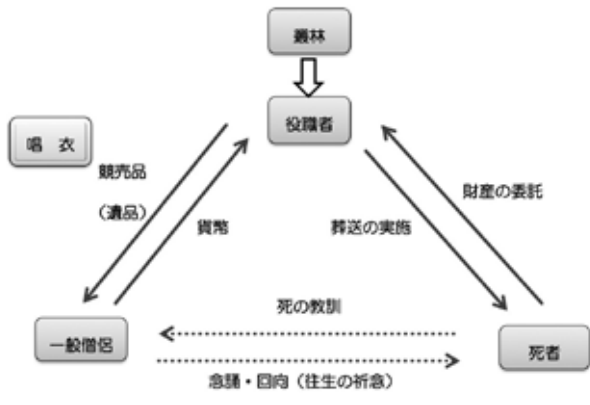
私は平成二十一年度から中村元東方研究所に専任研究員として採用され、禅宗清規を中心として、主に宗教共同体における法規と儀礼について宗教学的観点から研究を続けてきました。この基盤研究(C)は平成二十四年度に採択され、本年度の二十七年まで四年間にわたって個人で研究しているものです。テーマとしている「唱衣法」とは、禅宗清規に記される禅僧の葬送儀礼の一つで、僧や住持の遺品を競売する儀礼です。この競売からの収入によって、葬送に関わる費用が賄われます。しかし、図に示すように、この儀礼に関係する三者(死者・叢林・僧侶)の間には、相互に交換関係が確認できます。加えて、この儀礼が、一次葬(火葬などの遺体処理)以後、二次葬(遺骨などの廟・墓所への埋葬)以前のタイミングで行われることから、死の表象となる遺品を処理することによって、共同体の死からの再生を促進する機能など、多面的な性質を持つと考えられるため、より研究を進展させるために科学研究費に応募しました。

科学研究費 基盤研究 (C)

葬送における遺品・貨幣・交換の宗教学的的研究

—唱衣法の事例から—

金子奈央 専任研究員



唱衣法図解

「禅宗清規における財の移動と唱衣法」『禅林備用清規』を中心として、『東方』、第二十九号、平成二十六年)等を発表しました。

四年間の研究期間では、まず中国において成立した諸清規における遺品の取扱・葬送の流れ・唱衣法の次第を文献学的に読解・分析することから出発し、三年度目からは、日本において成立した諸清規や関連文献における遺品処理や唱衣法の記述を読解しています。並行して、葬送という文脈において貨幣を媒介とした交換が持ちうる意味などについて、宗教学や文化人類学における理論面からの分析も続けてきました。

具体的な研究成果としては、中国成立の諸清規における唱衣法の記述の文献学的分析を土台とした以下の論文「中国撰述の諸清規における唱衣法―『入衆須知』・『叢林校定清規総要』・『禅林備用清規』・『幻住庵清規』を中心に―」(『東方』、第二十八号、平成二十五年)、『禅林備用清規』における法意識と唱衣法」(『印度學仏教学研究』、第六十二号、平成二十五年)、『禅宗清規における財の移動と唱衣法―『禅林備用清規』を中心として―」(『東方』、第二十九号、平成二十六年)等を発表しました。



IAHRにて発表を行う金子研究員
学会等においても、日本宗教学会、日本印度学仏教学会などで研究の成果を発表してきました。平成二十六年に日本宗教学会において発表した『喪記集』における唱衣法』(『宗教研究』、第八十八巻別冊、

平成二十七年)は、十四世紀の日本曹洞宗の禅師たちの葬送の記録から、遺品の扱いと唱衣法の記述を読解して、中国成立の諸清規との比較を試みたものです。中世期日本に始まる禅宗清規の移入と変容の一端を示すため、更なる考察を加えて論文として完成させる予定です。また、研究期間の最終年度となる平成二十七年には、ドイツのエアフルト大学にて開催された第二十一回国際宗教学宗教学史会議世界大会 (IAHR World Congress) において研究成果を発表しました。文化人類学における葬送儀礼、特に二次葬の研究成果を導入し、葬送儀礼の一つである唱衣法は、禅宗叢林・寺院が死という危機から再生するにあたって、引き取り手のない遺品を貨幣と交換する事によってその意味を交換するとともに、その経済的性質から、叢林の維持および叢林の構成員の利益に寄与する意義を持つという内容でした。

研究期間も残り少なくなりましたが、論文の執筆や関連文献の読解に取り組んでゆく予定です。

研

究

所

コ

ラ

ム

佐久間留理子 専任研究員

ネパール大震災とこころの復興



写真1 カスタ・マンダブ

のガウタマさんの
のお宅を訪問し、
地震後の様子に
ついてお話を聞
いた。一家は無
事であったが、
余震への懸念か
ら一週間程駐車
場で宿泊まりし
た。そして震災
から一ヶ月程経

平成二十七年四月二十五日に、ネパールの首都カトマンズの西北約七十七キロの地点を震源とするマグニチュード七・八の大地震が発生した。それによって八千五百人超(同年五月の報告)の人命が奪われるとともに、多くの寺院や建物が倒壊もしくは損壊した。筆者は、同年八月に仏教と異宗教との共生に関する現地調査のため、カトマンズとその周辺を訪れた。被害が大きかったカトマンズの旧王宮前ダルバル広場では、シヴァ寺院等のヒンドゥー教寺院の他、かつて隊商の宿泊施設でもあったカスタ・マンダブ(十六世紀初、世界遺産、写真1)も倒壊した。筆者が訪れた時には、残された土台に倒壊前の写真を掲示した看板がポツリと立てられていた。諸行無常とは言うけれども、あまりの呆気無さに茫然として立ち尽した。その後知人で仏画師



写真2 息災護摩(カトマンズ市内)

カトマンズの南にあるチョーバラ・マツェーンドラナート寺院にも行った。この寺の本尊はカトマンズ盆地にある代表的な四つの観音の一つである。境内に入るとトントンと釘を打つ音が聞こえて来たのでその理由を尋ねた。死者が夢等に亡霊として現れて眠れない時、生前に使用していた食器類を寺に持参し壁にそれらを打ち付ければ、その霊は鎮まるそうである。この年は震災の影響で多くの人々が訪れたという。このように宗教的実践の力によって、震災で傷ついた人々のこころの復興が徐々に進みつつあるのを実感した。(震災復興は道半ばです。(公社)日本ネパール協会等では現在も義援金を受け付けています。)

った頃、ガウタマさんの兄サルヴァジュニヤ師が、生類の災いを無くすため息災護摩を焚いた(写真2、ガウタマ氏撮影)。また筆者は滞在中、

佐久間留理子 さくまるりこ

昭和三十七年、神戸市生まれ。名古屋大学大学院博士課程単位修得上満期退学。博士(文学)。(公財)中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師。著書に『観音菩薩…変幻自在な姿をとる救済者』(春秋社、平成二十七年)等。

新 刊 案 内

佐久間留理子 著 『観音菩薩 変幻自在な姿をとる救済者』

日本で親しまれている十一面観音や千手観音、不空羂索観音などを中心に 10 種の観音菩薩を取り上げ、観音信仰のあり方をはじめ、仏像・仏画などの美術面にも力を注ぎ、多数の変化観音のルーツから凶像の特徴や功德・靈験までを幅広く解説する。凶版総数 120 点。

単行本：272 ページ
出版社：春秋社 言語：日本語
ISBN：978-4-393-11910-5
発売日：平成 27 年 10 月 23 日
定価：本体 2,600 円 (税別)



研究員の声 茨田通俊 専任研究員

厳しい時代の中で 問われる学び

研究員になって二十数年、主にサンスクリット語やパーリ語で書かれた文献を研究対象として学んで来ました。その広大で深遠な世界は、人間が心豊かに人生を歩める智慧の宝庫と言えるでしょう。それだけに、短期的に目に見えた成果が期待できる研究を優先する最近の傾向は、とても残念でなりません。国家の方針で、人文系分野の縮小というところでもない愚策が断行されようとしています。私の住む大阪でも文化への軽視は甚だしく、ただ効率や成果を重視することで豊かな未来が開かれるという妄想が一人歩きしています。役に立ち利益になることが正しい、という人間の都合で生み出された根拠ほど、当てにならないも

のではありません。学問がもたらす叡智とは、社会の物質的経済的発展への寄与よりも、むしろ真実に暗い人間の愚かさを明らかにすることではないでしょうか。そして、そうした人間の相に深く向き合うことが、中村元東方研究所が担って来たものであり、逆に混迷する社会において最も必要とされることなのだと考えます。

これまで自分の思いを超えた所で色々な縁をいただいたおかげで、自ずと視野が広がり、種々の経験が積むことができました。その反面、近年は各界からの様々な要請で、活動範囲が研究者の枠に収まらない状況にあります。止まることのない多忙な生活への戸惑いを抱えながら、時代の流れに抗いつつ、社会の真底からの求めに精一杯応えていくことが、学んで来た者の務めなのだと思います。

茨田通俊 まんだみちとし

昭和 37 年大阪府生まれ。大谷大学文学部 (仏教学専攻) 卒業、同大学院博士後期課程満期退学。大谷大学特別研修員、真宗大谷派大阪教区教化センター主任研究員等を歴任。平成 9 年にアジア諸国派遣研究者としてインド・プネー大学に短期留学。専門はインド・東南アジアの仏教等。論文に『The Meaning of Tathāgata in the Avyākata Questions』(『長崎法潤博士古稀記念論集 仏教とジャイナ教』、平楽寺書店、平成 17 年 11 月) 等がある。現在東方学院講師のほか大阪大学非常勤講師。



留学中ご指導いただいた J.R.Joshi 先生と

新 刊 案 内

加藤みち子解説 『清沢満之 精神主義ほか』

宗教と哲学を生涯のテーマとし、禁欲的修道生活をすごしながら独自の主観的信仰を説いた清沢満之。その思想を、科学技術・物質文明および道徳・「宗教」に関する現代への提言という形で紹介する。

新書・324 頁
 出版社：中央公論新社 言語：日本語
 ISBN：978-4-12-160159-9
 発売日：平成 27 年 8 月 25 日
 定価：本体 1,700 円 (税別)



研究員の声 奈良修一 専任研究員

東方学院の授業を担当させて頂いて

ご存じの通り、昭和四十八年に中村元先生が東方学院を開かれてから、多くの先生がたが、講義をお持ちになり、それをもとに多くの著作を出されています。私の母方の祖母である柴田道賢（明治二十七年〜平成七年）も、講義を受け持たせて頂き、大学の講義とは違い、受講される方と対話をすることができ、それが教える方にも大変な勉強になるありがたい学院だと感謝しておりました。

この講義をもとに何冊か本を出版させていただいております。その一冊が、道元禅師の「弁道話」を扱った『弁道話私講』で、現在でも古本屋で求めることができるようです。

孫の私と同じようにこの学院に務めさせていただけることを大変感謝しておりますと共に、毎回のように自分の未熟さを感じている次第です。もともとが、東南アジア史を専門としておりましたが、「近代」とは何かと云う問題を考える必要性に迫られ、マックス・ヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を扱うようになりました。これは、かなり難解な本で、一人だけではなかなか読み説くのは難しいと思います。講義のテキストにしたおかげでかなり理解が進んだと思います。

現在、イスラーム過激派やパレスチナ問題がいろいろ取りざたされていますが、根本的な原因は十九世紀以降の欧米の植民地主義が原因です。改めて、「近代」と言われる現在の問題を根本的に考えることは必要ではないかと思、「近代再考」という講義を持たせて頂いております。

奈良修一 ならしゅういち

昭和 36 年生まれ、慶應義塾大学卒業、オランダ・ライデン大学客員研究員。専門は東南アジア史を中心とする東西文化交流史、ならびに比較文明史。論文に、『Is the VOC a Modern Company?: Reconsideration about the Modern』(『東方』21 号)、『東南アジア史における宗教的共存』(『比較文明』、22 号)、『東南アジアにおける、多元的共存と寛容思—ジャワにおける多元的共存—』(『インド宗教思想の多元的共存と寛容思想の解明 平成 19-21 年度科学研究費補助金基盤研究 (A) 研究成果報告書』、山喜房仏書林) などがある。



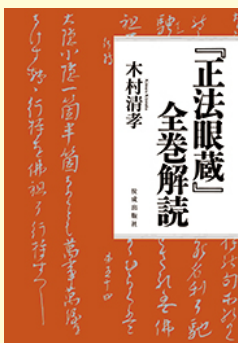
留学したライデンの街並み

新 刊 案 内

木村清孝著 『正法眼蔵』全巻解読

現代語訳によってもなお、理解することが難しい『正法眼蔵』—それぞれの巻の主旨・主張を読み解くことに焦点を当て、『正法眼蔵』の思想的全体像を照らし出す、著者渾身の書。

A5 版 上製・568 頁
 出版社：俊成出版社
 言語：日本語
 ISBN：978-4-333-02719
 発行日：平成 27 年 10 月 30 日
 定価：本体 3,800 円 (税別)



行事 イベント 報告

10月10日(土)開催

「中村元先生を偲ぶ」記念講演会

中村元東方学術奨励賞授賞式

中村元東方学術奨励賞授賞式

於東京・インド大使館



講演による常務理事 奈良

平成27年10月10日(土)、中村元先生第十七回忌に当たり、インド大使館のオーディオトリウムにおいて、「中村元先生を偲ぶ」という共通の演題のもと、前田専學理事長の司会により、先生と縁が深い金光壽郎元NHK放送ディレクター、奈良康明常務理事、保坂俊司理事による記念公演会が開催され、多くの参集者より賛辞を頂きました。それに引き続き、公益財団法人中村元東方研究所の「顕彰事業」の一環として、「第25回中村元東方

学術賞授賞式」が開催されました。授賞式には、ディーパ・ゴパラン・ワドワ・インド大使の名代として出席されたアミト・クマール・インド首席公使から御祝辞を頂き、三友健容立正大学教授に、前田理事長から「中村元東方学術賞」が、首席公使からインド大使署名入りの「功績証明書」が、授与されました。これに併せて、



三友教授(左)と前田理事長(右)

本年度から若手研究者の奨励を目的として創設された「第1回中村元東方学術奨励賞授賞式」が開催され、前田理事長から手島崇裕ソウル慶熙大学助教授に第1回中村元東方学術奨励賞が授与されました。式典終了後に開かれました祝賀会には総勢100人を越す出席者があり、平成27年度の「顕彰事業」を盛会裡に円了することが出来ました。

10月11日(日)開催

中村元先生霊廟参拝

於東京・多磨霊園

平成27年10月11日(日)、午前11時、東京都立多磨霊園内の中村元



撮影記念で全員参加者

先生の霊廟を、前田理事長を始め専任研究員、事務局員、理事を含め総勢17人が参拝いたしました。参拝に

は中村先生が毎朝唱えられ、葬儀には参列者全員で唱和して欲しいと遺言された『般若心経』など四経典を収録した『日課経』を参集者全員が唱和し、中村元先生のご遺徳に感謝致しました。終了後、前田理事長の好意により、会食しながら、中村先生が遺された高邁な精神の継承と普及に参集者一同が今一度誓いを新たにしました。

12月3日(木)・4日(金)開催
東方学院中部校・関西校
講師懇談会

①平成27年12月3日(木)、午後6時～8時30分、名古屋ガーデンパレスの「松の間」において、普及事業の一環として「東方学院中部校 講師懇談会」が開催されました。前田専學



中部校懇談会の様子

学院長、釈悟震総

務、中部校日野紹運主任、佐久間留理子主事、服部育郎局員を始め中部校講師4名などが出席し、東方学院の当年度の報告ならびに新年度の諸般事項に関して慎重かつ果敢に取り込むことを議論し、全会一致にて意見をまとめることが出来ました。



写真記念懇談会関西校

②平成27年12月4日(金)、午後6時～8時30分、ホテル平安の森京都「平安の間」において、

上記中部校に続いて「東方学院関西校 講師懇談会」が開催されました。当該の会においては、前田専學学院長、釈悟震総務、関西校西岡祖秀主任、茨田通俊主事、山口周子局員、細野邦子研究員を始め関西校講師5名などが出席し、東方学院の当年度の報告ならびに新年度の諸般事項に関して慎重かつ果敢に取り込むことを議論し、不特定かつ多数の人々に対する公益目的を達成すべく全会一致をもって認識を新たにすることが出来ました。

12月5日(土) 開催
東方学院・酬仏恩講演合同講演会

於 奈良・薬師寺

平成27年12月5日(土)、午後1時〜4時30分、奈良法相宗大本



前田学院長による開会の辞

山薬師寺「まほろば」を会場に、全国から約70名の聴衆が集まり、第16回東方学院・酬仏恩講演合同講演会講

演会が行われました。まず前田専學学院院长の開会挨拶に始まり、当法人の「研究調査事業」の一環として「アジア諸国海外派遣・調査助成金」により中国チベットに派遣された加納和雄高野山大学准教授の「チベットに伝存するサンスクリット語の仏典」という題による帰朝報告が続いた。その後酬仏恩講演招聘による立川武蔵国立民族博物館名誉教授より「『中論』と『般若経』―論法の違いについて」の講演が行われ、最後に薬師寺松久保秀胤長藤より謝辞



講演する加納氏



立川氏の講演

と共に東方学院と共催の当講演会が新年度もより一層発展され、多数の方々から教の真髄に触れられることを願う、との挨拶を以て、恙なく円了することが出来ました。

東方学院

ガイダンスのご案内

ガイダンス会場では、講師と直接お話が出来ます。新規受講の方だけでなく、継続受講の方もふるってご参加ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

東京本校・4月4日(月) 18時

於ホテル東京ガーデンパレス
関西校・4月4日(月) 18時

於真宗大谷派茨木別院

中部校・4月1日(金) 18時半

於ホテル名古屋ガーデンパレス

※詳細は受講票とともにお送りします
ご案内に記載しております。

平成27年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げます。 ※平成28年1月31日受領分まで掲載しております。

賛助会員

阿部敦子 有馬頼底 栗野芳夫 石井勝彦 石井義長 伊藤瑞穂 稲葉珠慶 入井善樹 入江有道
石上智康 宇杉真 遠藤康 大井玄 大谷光真 太田正孝 小笠原隆元 岡田行弘 岡田真美子
萩山貴美子 奥住毅 奥田洋子 桂紹隆 菅野博史 北村彰宏 木村清孝 黒田大雲 小林正和
小林守 小林和子 小峰啓吾 小峰立丸 古村けさじ 小山典勇 在家仏教協会 斎藤明 櫻井瑞彦
佐久間秀範 佐久間留理子 定方晟 佐藤憲晃 佐藤行教 下田勇人 末木文美士 菅沼荘二郎
浄土真宗東本願寺派本山東本願寺 須佐知行 鈴木清子 鈴木勇介 関戸堯海 大海修一 高橋審也
高橋尚夫 田上太秀 武田浩学 竹田軍都 立花ひろ子 田中良昭 千賀正榮 鶴谷志磨子 展勝地
洞雲寺 東京書籍 當間哲也 東洋哲学研究所 徳育経営研究所 戸田忠 鳥山玲 中川紀子
長野市南長野仏教会 中村行明 中村久夫 中村保志孝 那須礼子 西内之朗 西尾秀生 西川高史
西宮寛 長谷川恵子 島中光享 花岡秀哉 花山多賀江 濱川香雅里 濱川量子 引田弘道
久富幸子 一月正人 平井恭子 平岩阿佐夫 福土慈稔 福留順子 福原正直 藤井教公 藤田宏達
法恩寺(藤原敏文) 堀江順司 堀越教之 保坂俊司 的場裕子 水谷俊一 水谷浩志 水野善朝
宮元啓一 森脇宏 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 山田和伸 山本文溪 由木義文 好井瑞院

維持会員

赤井士郎 浅井泰範 史跡足利学校事務所 今西順吉 太田光美 小笠原勝治 門脇英晴 川崎信定
川崎寿子 川崎大師平間寺 黒川文子 克念社 小坂機融 金剛院仏教文化研究所 久保継成
斎藤敬 西来寺 清水谷善圭 山陰中央テレビジョン放送 下重好正 釈悟震 春秋社
淳心会(日野紹運) 末廣照純 菅原信海 浅草寺 高崎宏子 高松孝行 多田孝正 田辺和子
田原豊道 千葉よし子 中央学術研究所 千綿道人 角田泰隆 常磐井鸞猷 中田直道 奈良康明
成田山新勝寺 西岡祖秀 日本ヨーガ禅道院 念法眞教 羽矢辰夫 仏教書録目録刊行会
仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺 前田専學 前田式子 松久保秀胤 三木純子
水野善文 三友健容 薬王院 渡邊信之 渡邊實陽

ご寄付

大石政弘 大桑友朗 桶屋良祐 川崎信定 清川容子 来馬正行 小林和子 小山典勇 西城宗隆
斎藤はるみ 真宗大谷派親鸞仏教センター 武田信光 中田直道 藤田宏達 前田専學 松野進
三木純子 三友健容

東方学院後援会

一心寺 今宮戎神社 大神神社 奥田聖應 加藤公俊 健代和央 古泉圓順 坂本峰徳 四天王寺
清風学園 瀧藤尊淳 塚原昭應 塚原亮應 出口順得 出口隆順 唐招提寺 東大寺 念法眞教団
平岡英信 南谷恵敬 宮崎光映 森田俊朗 森田惇朗 山岡武明 吉田明良

事務局通信

内閣府立入検査報告

平成 27 年 11 月 5 日、午前 10 時～午後 5 時、法令に従って所轄官庁内閣府より当該法人が公益財団法人中村元東方研究所として認可後、初めての立入検査を受けました。内閣府より主席検査官と政策調査官 2 人の調査チームによる検査において、本法人の前田専學理事長、奈良康明常務理事、丸井浩常務理事兼事務局長、釈悟震総務、加藤みち子主事、新井泰夫主務が対応を致しました。

大変緻密かつ厳格な検査によるものでしたが、最終的に検査官よりの「講評」は「法人運営上改善を要する懸案はない」とのことでありました。従って本法人は、引き続き、中村元博士が遺された高邁な精神を皆様をはじめ不特定かつ多くの方々に普及推進することが出来るようになりました。これも偏に中村元博士以来の数多くの皆様のご支援の賜であると理事長以下全職員が感謝を申し上げます。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援 (維持会員・賛助会員)

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でお願いできれば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は文部科学大臣より寄付金控除の対象となる証明を受けていますので、上記 (1)、(2) の一般ご寄付及び維持会・賛助会の会費は、下記の通り税法上の優遇措置の対象となります。

※所得控除・・・所得控除は、所得金額に対して寄付金額の大きい場合に減税効果が大きくなります。「その年の寄付金額 - 2,000 円」が課税される所得金額から控除されます。控除できる寄付金額はその年の総所得金額等の 40% 相当額が限度となっております。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 東方学院 (開講科目、講師紹介、著書紹介)
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内



東方だより 平成 27 年度後期号 (通号第 27 号)

平成 28 年 2 月 22 日発行

【編集 / 発行】公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局 (東京)

編集責任者：釈悟震

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階 TEL: 03-3251-4081 FAX: 03-3251-4082